

「社会の大丈夫をつくっていく。」企業として ～OKIグループのサステナビリティの取り組み～

OKIグループは企業理念に基づき、「社会の大丈夫をつくっていく。」企業として、サステナビリティの取り組みを推進します。モノづくり・コトづくりを通して社会課題の解決に貢献し、より安全で便利な社会のインフラを支えるとともに、「OKIなら安心して任せられる」と言われる企業活動を実践していきます。

●マテリアリティに基づき取り組みを推進

OKIグループは、企業理念に記すとおり、「進取の精神」のもと、情報社会の発展に寄与する商品やサービスの提供、すなわち本業を通じて、世界の人々に貢献することを目指してきました。この追求と実現こそが、OKIグループの社会的責任の根幹をなすものです。

この認識に基づき、グループ全体で企業理念に根差した社会的責任を的確に果たすため、「OKIグループ企業行動憲章」を制定。さらに、憲章に則って役員および社員がとるべき行動の規範を「OKIグループ行動規範」としてまとめ、グループの全社でこれを採択し、研修などを通じて周知・徹底を図

ています。この憲章および規範は、企業価値の向上に向けてOKIグループのすべての役員・社員が共有すべき価値観(P1参照)の基盤に位置づけられています。

こうした姿勢を長期的に継続し、目指す姿である「モノづくり・コトづくり」を通して、より安全で便利な社会のインフラを支える企業グループとして「社会の大丈夫をつくっていく。」ため、中期経営計画2022において、社会価値創出・経営基盤強化の両面からマテリアリティを特定しました。これを具体化した環境・社会・ガバナンス(ESG)の取り組みの2020年度における概況は表に示すとおりです。

●サステナビリティの取り組みを強化するために

OKIは2020年度、マテリアリティに基づきサステナビリティの取り組みを強化するため、推進体制として「サステナビリティ推進ワーキンググループ(WG)」を設置しました。WGは社長執行役員をオーナーに、コーポレートの関係部門と事業本部・営業本部の代表者で構成しています。一人ひとりが「我が事」としてサステナビリティに取り組むべく、2020年度は社外講師によるセミナーや、社長とOKI全部門長によるESGをテーマとしたダイアログなどを実施しました。引き続き、取り組みの進捗の的確な開示、これに基づくステークホルダーとの対話と活動へのフィードバックなどを進めていきます。

OKIグループのマテリアリティとESGへの取り組み

マテリアリティ	ESGテーマ	2020～2022年度の取り組み	2020年度の実績	関連ページ
社会価値創出 社会課題を解決するモノ、コトの実現 社会課題：老化問題、自然災害、交通問題、環境問題、労働力不足、労働生産性、感染症拡大	E ●環境課題解決に貢献する商品の創出 ●サーキュラーエコノミーへの対応	●環境貢献商品の拡大 ●ライフサイクルCO ₂ の削減 ●サーキュラーエコノミー案件の創出	●環境貢献商品 売上高1,273億円(グループ全体売上高の32%) ●ライフサイクルCO ₂ 54%削減(2013年度比) ●サーキュラーエコノミー案件を含む環境貢献商品の定義や分類の整備	P37-40 P53-54
	S ●社会課題解決に貢献する商品の創出 ●企業活動における価値創造推進	●成長戦略に示す社会課題への取り組み ●イノベーションに向けた社内文化改革 ●モノづくりと成長領域事業を支える人財の育成・確保	●7つの社会課題解決に向けた商品創出を推進。労働力不足への対応では、高度遠隔運用分野で共創パートナーとの実証実験を実施 ●全員参加型イノベーション実現に向け、基礎研修をグループ累計で3,124名が受講 ●Yume Proチャレンジ応募数147件へ拡大 ●「実践力のあるAI技術者」を2022年度末に300名にする計画に対し、273名達成 ●設計者のスキルアセスメント標準化を推進	P20-22 P19 P23-24 P41
	G ●ESGを経営の中核と位置づける	●マテリアリティに基づく取り組みの推進・評価	●グループ横断でマテリアリティへの取り組みを推進するため、サステナビリティ推進WGを設置 ●サステナビリティをテーマとした社長とOKI全部門長のダイアログなど、社内啓発の活動を強化	P31-32
経営基盤強化 ステークホルダーの期待に応える企業活動の実現 誠実な企業活動(ガバナンス、内部統制、情報開示)、気候変動への対応、人財マネジメント モノづくりを支える基盤の強化	E ●気候変動の緩和と適応、汚染の予防、資源循環	●事業拠点におけるCO ₂ 削減、再生エネルギー導入強化 ●運用共通化による化学物質管理の強化 ●再資源化率の向上	●事業拠点におけるCO ₂ 削減 目標31%→実績34%削減 ●再生エネルギー「クレジット購入目標400t-CO ₂ →実績400t-CO ₂ ●化学物質管理ワーキンググループ活動による管理の徹底 ●再資源化率 目標83%→実績79%	P37-40 P53-54
	S ●モノづくり基盤の強化 ●人権・労働の取り組み強化	●バーチャルOne Factoryの推進 ●品質の取り組み強化 ●スマート・ワークライフの実現 ●ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ●労働安全衛生・健康経営の取り組み強化	●モノづくり基盤強化PJ活動を推進 ●OKIグループ品質方針に基づいた品質活動を継続。品質不正防止に関してOKIグループの設計、製造現場の従業員へのアンケート調査を継続実施 ●テレワーク勤務を拡充、約3,000名を「テレワーク主体者」としてテレワーク手当を支給 ●テレワーク環境下のマネジメントを支援するマネジメント研修を実施 ●女性管理職比率3.3%(OKI)、5.3%(OKIグループ) ●選抜制の女性リーダー育成研修を継続実施 ●コラボヘルス体制で健康経営の各種施策を推進。ストレスチェック受検率92.8% ●JEITAの責任ある企業行動ガイドラインに準拠しサプライチェーンCSR推進ガイドブックを改版	P41 P33-36 P53-54 P42
	G ●コーポレートガバナンスの強化 ●内部統制/リスクマネジメント ●的確な情報開示とエンゲージメント(対話)強化	●取締役会実効性評価に基づく着実な改善 ●リスク管理の精度向上と定着 ●TCFDのフレームワークに基づく開示 ●マテリアリティの取り組みに関する確実な開示 ●IR/SRなどにおける対話の強化	●2020年度実効性評価を実施 ●OKI各本部における事業リスクを特定、マネジメントサイクルの構築と仕組みを整備 ●CDP回答などTCFDのフレームワークに基づく開示を実施 ●OKIレポートの発行とサステナビリティサイトの充実 ●Webサイト「投資家の皆様へ」が3つの主要なIRサイト評価機関で高評価を獲得	P43-48 P49-50 P37-40 P53-54